

一 般 質 問

市政のそこが聞きたい!!

〔質問順位による〕

第1回(3月)定例会の一般質問は、9日、10日、11日の3日間に10人の議員から市政全般について質問がありました。主な内容は、次のとおりです。



野々下 昌文 議員

小中学校の熱中症対策について

問 本市の体育館における夏季の授業・部活動の実施状況、過去の熱中症発生件数、教育委員会の危機認識を問う。

答 体育館や校庭を使用する際は、電子式暑さ指数計でWBGTを測定し、ガイドラインに沿って対応している。過去3年間で熱中症は30件発生したが、いずれも適切な初期対応で重症化はない。しかし体育館内のリスクは高く、猛暑の深刻化を踏まえ、熱環境

改善は早急に必要と認識している。

問 体育館へのエアコンや断熱遮熱対策の設置時期、現時点でのスケジュールを問う。

答 令和8年度から小学校の特別教室への空調設置をこの3月に発注予定で、令和8年度中に小学校を終了し、国の予算の動向にもよるが、令和9年度には中学校の特別教室へのエアコン設置を終えたいと考えている。体育館への空調導入については、時期や設置する学校など現時点で具体的なスケジュールはない。

問 市民を守る防災拠点として機能を強化する観点から空調と断熱の整備を急ぐべきではないか問う。

答 災害時には指定避難所と

して重要な役割を担う施設であり、避難所としての機能強化を図る防災の観点も含め、なるべく早く空調設備を導入できるよう取り組んでいきたい。

フューチャー・デザイン の積極的な活用 について

問 フューチャー・デザインという、現世代だけでなく仮想将来世代の視点も取り入れた政策形成について所見を問う。

答 フューチャー・デザインは将来世代の視点から現在の政策を問い直す考えであり、バックキャストは理想の未来像から逆算して現在の取り組みを考える手法である。全分野へ一律に導入するのではなく、必要な政策テーマを選択し、市民と将来世代の視点を共有する対話の場を設けることが有意義であると考えている。本市に適した活用方法を検討していく。

問 本市でもフューチャー・デザインを政策立案に取り入れる組織整備が必要と考える

が、市長の所見を問う。

答 将来の子どもたちがより多くの選択肢を持てるよう、今の政策が20年、50年先に評価されるものでなければならぬと考えている。財政負担についても将来世代に過度な負担を残さぬよう慎重に進めたい。矢巾町の未来戦略室は先進事例として承知しているが、本市では新たな専任組織を設けるのではなく、既存の組織体制の中でフューチャー・デザインの視点を取り入れ、柔軟に対応していく。非常に大切な視点であり、しっかりと取り入れ活用していきたい。



今城 隆 議員

人事評価制度の適正運用について

問 宿毛市は人事評価基準等が未整備で、評価の本人通知やフィードバックが不十分である。職員給与条例と勤勉手